

スーパースクール事業実践事例

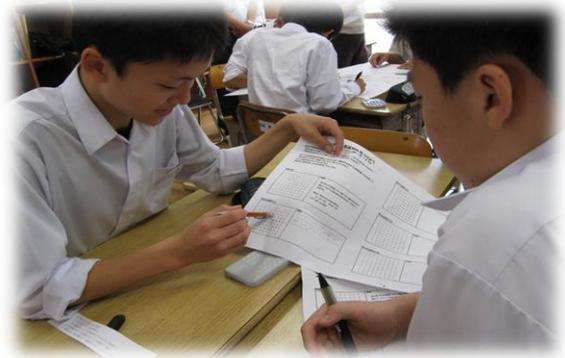
平成24年3月
島根県教育委員会

平成18年度からの「しまね学力向上プロジェクト」事業により、児童生徒の基礎的・基本的事項の定着に一定の成果が見られ、教員の授業改善への意欲も高まってきました。一方、知識・技能を活用する力には課題があり、学習意欲を高め、思考力・判断力・表現力等を育む取組を一層推進する必要がありますことが明らかになりました。

そこで第2期に当たる平成21年度からの3年間、県内の小・中学校5校をスーパースクール実践校に指定し、教員の指導力向上に向けた取組及びその成果の普及、一人一人の子どもの考える力を伸ばす授業の創造を中心に取り組んでいただきました。

ここでは、各実践校の取組をいくつかの視点でまとめています。各学校においてスーパースクール実践校の事例を参考とし、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえた取組が積極的に推進されますようお願いします。

個人の思考を学習グループ
で伝え合う様子（三隅中）



スーパースクール実践校（平成21～23年度）

●松江市立城北小学校

研究主題 確かな学びを支える情報リテラシーの育成（平成21年度）
伝え合い、学び合い、確かな学びをつくる子どもの育成（平成22・23年度）

●出雲市立西野小学校

研究主題 意欲的に問題解決に取り組み、共に学び合う子どもの育成
～個々の気付きや考えを伝え合い、深め合う生活科・社会科学習～（平成21・22年度）
～一人一人のよりよい学びを支える「西野スーパープロジェクト」～（平成23年度）

●浜田市立三隅中学校

研究主題 豊かな心の育成と確かな学力の向上をめざして
～ことばの教育を基盤とした学習集団づくり～（平成21年度）
よく考え、自信をもって表現できる生徒の育成をめざして
～ことばの教育を基盤とした学び合う集団づくり～（平成22年度）
～言語活動をとおして学び合う集団づくり～（平成23年度）

●益田市立吉田小学校

研究主題 願いや目的意識をもち、自分を表現できる子どもの育成

●西ノ島町立西ノ島中学校

研究主題 生徒どうしの豊かな人間関係づくりを目指して
～学び合い・支え合い・高め合う人間関係を育てるために～

教員の指導力向上に向けた取組事例

☆「城北の学び」をつくる取組（城北小）

- ・全教員が日常の授業を公開し、子どもの様子や変化に目を向けた授業研究を実施した。授業研究における話合いの内容を、授業研究日より「城北の学び」にまとめて発行することで指導のポイントを共有化した。

実践上の留意点

- ◇座席表を添付した指導案で授業を公開し、子どもの学びの見取りを重視する。
- ◇部会単位の授業研究により、自習時間を少なくする。

主な成果

- 教員一人一人の授業改善に向かう姿勢が確立し、授業改善の方向性が明確になった。
- 教員間コミュニケーションが活発化し、児童理解が深化した。

☆「授業力腕磨きプロジェクト」の推進（西野小）

- ・子どもの実態に即した教材開発と教材の再構成を行った。
- ・授業者の自己課題を明確にした学習指導案の作成と、同じ自己課題をもつ小グループによるワークショップ型授業研究を実施した。

実践上の留意点

- ◇教材化した資料等を單元ごとに一括管理する。
- ◇簡略な指導案に自己課題への手だてを明記する。担任する学年を越えた小グループを編成する。

主な成果

- 次年度以降の職員構成の変化に左右されない授業づくりの継続ができる。
- 課題解決のための方策に焦点をあてた深い協議ができた。学年を越えた系統的な指導の意識が高まった。



ワークショップ型授業研究

☆三隅自治区内小中一貫教育「授業力向上部会」による連携（三隅中）

- ・義務教育9年間で育成する「めざす子ども像」を共有し、「家庭学習の習慣化」と「言語活動の充実」を柱に自治区内の4小学校と連携を推進した。

実践上の留意点

- ◇各校の研究主任等が調整役となって研修計画を立案し、授業参観をとおして連携を推進する。
- ◇各教科部で年間指導計画に言語活動を設定する。

主な成果

- 言語活動の充実によって学力向上を目指すという共通意識を、自治区内でもつことができた。

☆積極的な授業公開、研修会の実施による授業力向上（吉田小）

- ・年度当初のモデル授業※1提案授業※2を踏まえ、公開授業※3を行った。
- ・筑波大学附属小学校細水保宏氏を講師に招き、「算数授業力向上研修会」を開催した。

実践上の留意点

- ◇前年度までの取組を継続するためのモデル授業・提案授業は全教員が必ず参加できるように調整する。
- ◇学年部ごとにペア・グループの生かし方等のテーマを決めて協議したうえで授業を公開する。

主な成果

- 問題解決型の学習過程や研究主題に迫る取組の共通理解を図ることができた。
- 校内における協議、算数科の重点授業の公開を通じて授業力が向上した。

- ※1 研究主題に迫る授業スタイルの共通理解の促進を図るため、全教職員を対象に年度当初に実施する。
- ※2 各学年部の取組の成果を全校で共通理解するため、各学年1回ずつ実施する。
- ※3 各教員の授業力向上を目指し、一人一授業を校外にも公開する。

☆教員を生徒に見立てた模擬授業の実施（西ノ島中）

- ・先生役の教員の授業を、他の教員が生徒役となって受ける模擬授業を実施した。

実践上の留意点

- ◇指導案を授業終了後に配付することで、生徒役の教員は生徒に近い感覚で模擬授業を受けるようにする。
- ◇模擬授業後に授業研究を実施する。

主な成果

- 生徒役の教員から出される、生徒の視点に立った意見により、授業実践に生かせる指導法の工夫・改善を図ることができた。



教員を生徒に見立てた模擬授業

一人一人の子どもの考える力を伸ばす授業の取組事例

☆「学びとの出会い・人との関わり・学びのふりかえり」の構成を意識した授業実践（城北小）

- ・友だちと学び合う必然性のある学習課題を設定し、ペアやグループで考えを交流させ、学んだことを個人でまとめさせるという一連の学習活動を工夫した。



ミニホワイトボードを活用したグループでの学び合い（城北小）

実践上の留意点

- ◇授業者は「聴く」「つなぐ」「もどす」「立ち止まる」を意識して児童に関わるようにする。
- ◇学級全体で学びをふり返る際は、学びの跡が分かるように板書を工夫する。

主な成果

- 児童はペアやグループによる対話をとおして、自信をもって意見を伝えられるようになった。
- 多様な意見を大切にしようという態度を育てることができた。

☆「学年ユニット」によるきめ細かな指導と伝え合いの場の工夫（西野小）

- ・複数の教員による学級内でのTTや少人数指導、学年単位での学習や交流等の指導法を工夫した。
- ・書く活動を積極的に取り入れて言語活動を充実させた。

実践上の留意点

- ◇学習内容や児童の学習の状況に適した学習形態を選択する。
- ◇考える時間を保証する。話し方や聞き方の指導を積み重ねる。

主な成果

- 大きな集団の中では活躍できない児童もいきいきと学習に取り組むことができた。
- 友だちの意見と比べたり、資料を示したりしながら自分の考えを発表する児童の姿が見られた。



自分の考えをワークシートに書く場面

☆「思考・判断・表現・振り返り」のサイクルを取り入れた授業実践（三隅中）

- ・「個人の思考から複数による思考の深化、再度個人の思考へもどす」という言語活動を介した思考形態の流れを各教科で導入した。

実践上の留意点

- ◇生徒が「考えてみたい」と思う教材の開発をする。
- ◇生徒同士の思考をつなぎ深めるための学習グループの活用を工夫する。

主な成果

- 様々な考えに触れることで、生徒は学習の楽しさを感じ、学習意欲が高まった。
- 生徒同士のコミュニケーション能力が向上し、よりよい集団づくりの基盤とすることができた。

☆「学び合い」のスタイルを取り入れた授業実践（吉田小）

- ・授業の中でペア学習やグループ学習を取り入れ、自分の思いや考えを発表する機会を意図的に設定した。
- ・学校改革コンサルタント佐藤雅彰氏※を招いて「学び合い」のスタイルの授業を公開した。

実践上の留意点

- ◇「学び合い」のスタイルを全教科等で取り入れる。
- ◇友だちの考えを他の児童が説明する等、発表の仕方を工夫し、子ども同士の聴き合う関係づくりに努める。

主な成果

- 児童の課題を追究する意欲が高まり、考えたことを説明する力が伸びた。

※ 元富士市立岳陽中学校校長

「学びの共同体」の教育実践を通して学校改革に取り組む。



ペアで問題を考えている様子

☆テスト結果票等を活用したきめ細かな指導（西ノ島中）

- ・定期テスト後に配付するテスト結果票に、各教科担当者からのアドバイスや改善点を記入した。
- ・定期テストや県学力調査の分析結果を冊子にまとめ全教職員で協議した。

実践上の留意点

◇生徒へのコメントは具体的に記入する。

主な成果

- 具体的なアドバイスを受けることで、生徒は自分の課題や自分に適した学習法を知ることができた。
- 教員が学年部・担当教科を越えて生徒の実態や対策を共有し、個に応じた指導・支援ができた。

実践校独自のねらいで行った取組事例

☆「情報リテラシー」の育成（城北小）

- ・子どもの発達段階に合わせ「情報リテラシー重点指導項目」をまとめ、課題設定、情報収集・記録・整理、まとめ・伝え合いという学習活動の一連の流れを明確にした。

実践上の留意点

- ◇担任、学校司書、司書教諭が連携して図書館を有効に活用する。
- ◇スピーチタイム、ペアトーク、グループ等の対話や交流を効果的に取り入れる。

主な成果

- 情報カードを使い児童の情報の記録・取捨選択、文章構成の力を伸ばすことができた。
- お互いの考えを吟味し合うことで、児童は考えを深めることができた。



図書館での年鑑の指導

☆世界に誇れる教育資源の教材化（西野小）

- ・西野小の卒業生である坪田愛華さんの生き方や絵本「地球の秘密」の教材化を図り、総合的な学習の時間で地球環境問題について追究した。

実践上の留意点

- ◇教員自身が校区にある魅力的な素材に直接触れ、教材化を進める意識をもつ。

主な成果

- 児童は意欲的に学習に取り組むことができた。
- 児童は坪田愛華さんや西野小で学ぶことを誇りに思い、西野小への愛着を育むことができた。

☆「授業公開シート」を活用した授業公開（三隅中）

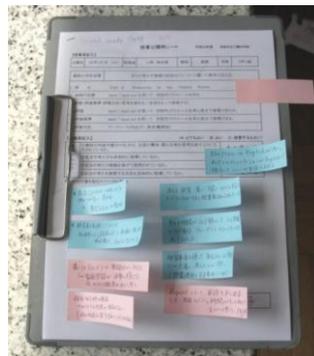
- ・参観の視点を明確にした授業公開シートに、授業参観者は評価を記入し、「よかった点」「改善点」を記入した色別の付箋紙を添付する。授業者は授業公開シートに改善点等を記入する。

実践上の留意点

- ◇授業後速やかに授業公開シートが活用できるように、研究部内の担当を明確にする。

主な成果

- 授業公開の負担軽減と研修の充実を図ることができた。
- 授業を参観していなくても、授業公開シートを活用した研修を行うことができる。



付箋紙を添付した授業公開シート

☆ICTを活用した授業実践（吉田小）

- ・授業者が資料を提示したり、児童が自分の考えを説明したりする際に書画カメラと電子黒板を使用した。



書画カメラと電子黒板を活用した授業実践の様子

実践上の留意点

- ◇ICT機器の研修会を実施したり、ICTの機器を活用した授業を公開したりして、使用方法及び利点を確認する。

主な成果

- 効果的な資料提示により、児童の興味・関心を高めることができた。
- 自分の考えを視覚的な情報を用いながら説明させることで、児童の言語活動を充実させることができた。

☆演劇活動をととした表現力の育成（西ノ島中）

- ・西ノ島の人物・自然・文化・歴史を題材にしたオリジナル演劇を上演した。脚本は教員、大道具、小道具等は生徒が作成し、公民館で保護者や地域の方に公開した。

実践上の留意点

- ◇練習時間を確保するため、きめ細かな練習計画を作成する。

主な成果

- 生徒・教員・保護者・地域のつながりが深まり、生徒のふるさとの愛情と誇りを育むことができた。
- 保護者・地域の方の感想を紹介することで、生徒の自尊感情を高めることができた。



オリジナル演劇上演の様子